

白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

第1894回例会

令和8年3月26日
18：30～19：30



創立40周年

○ソング

- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 藤田龍文会長（本日は会員卓話、大竹ゆかり会員、鈴木恒平会員、卓話ありがとうございました。来週末には記念コンペ。翌週は記念式典、懇親会となります。よろしくお願いします。）
- 運天直人幹事（新人会員の皆様、おめでとうございます。これから共にロータリーを楽しんで参りましょう。また穂積さん今日はお子さんにもロータリーを知ってもらう良い機会になりますね。）
- 金田昇会員（大竹さん恒平さん卓話ありがとうございました。28日29日は会長エレクトレーニングセミナーです。担当会員みなさまにお世話になります。）
- 成井正之会員（大竹ゆかり会員、鈴木恒平会員卓話ありがとうございました。これからのご活躍を期待しています。）
- 前原俊治会員（40周年成功しますように。5日のゴルフコンペ晴れますように。）
- 照井耕輔会員（先日は新入会のご承認ありがとうございました。また入会早々ですが結婚記念日のお祝いありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。）
- 沼田重一会員（大竹ゆかり会員、鈴木恒平会員卓話ありがとうございました。今日は会社年度末ということでバタバタしています。来月からしっかり出席したいと思います。）

▶第1894回例会出席状況 (R8年3月26日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	57名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	17
Ⓓ 全正会員数	75名
Ⓒ ①の出席者数	22名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	12名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	34名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	70
① = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	48.5%

3月26日 ～本日のメニュー～



- ・ポテトサラダ
- ・海老と野菜の生春巻き
- ・豚肩ロースのネギ酢豚
- ・味噌汁
- ・香の物
- ・白飯
- ・アイスクリーム

本日のプログラム

■会長の時間

藤田龍文会長



皆さん、こんばんは。3月の年度末ということで、大変皆さんお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。第一ホテルの下の掲示板見ますともう今日送別会が二つ入ってるので、そんな時期な

のかなんていうことを今、思いながらこう2階に上がってまいりました。本日は会員卓話ということで、期待の新人の鈴木恒平さん、大竹ゆかりさん、お二方からお話をいただけるということですので、是非よろしくお願いしたいと思っております。期待して楽しみにしております。そして本日、穂積君がまた久々に仕事のお忙しい時間、合間縫ってもらって参加していただいております。お子さん連れということで、今年度に関しましてはこういうのもどどんOKですということで、次年度はまた次年度の会長さんの考え方ありますので。それをもってしても例会に参加していただけるという体制はすごくほのぼのしているかと思っております是非またお子さんの面倒見なくちゃいけないといった時でも、一緒にお連れになって来ていただくというのも、ひとつ西ロータリーらしいかなと思います是非よろしくお願いいたします。40周年がだんだん近くなって先日も40周年の実行委員会おこないまして、とても慌ただしい感じにはなってきたという部分ではあります。本日、皆さんのところに4月のプログラムがボックスの中に入ってると思うんですが、なかなか見ない組織でピンク色の組織になっております。そして裏面までございます。だんだんいろいろな部分が煮詰まってきました、4月5日のコンペの場所だったり、会員のスタートだったり、記念式典当日大体皆さんに何時に集まっていたらいい、一日のスケジュールの大まかな流れというのがこちらに書いてありますので、そちらもどどん決まった事は皆さんにお知らせしてと思いますが、大枠はこんな感じで進んでいきますということになりますので、是非そちらのほうも皆さんご予定のほうをよろしくお願いしたいと思います。そして今週末地区のほうのPELS、次年度の会長のセミナーが「八幡屋」のほうで一泊二日でございます。該当者は次年度会長ということなので青木大君になりますが、今年度は運営のほうも当クラブが中心となってやってくということですので、土曜日曜地区のほうにお手伝い行かれる方、例年よりも圧倒的に多いと思いますがそちらのほうも是非準備をしていただいて、次年度金田ガバナー年度に向けてと青木年度に向けてということでご尽力をいただければ

と思います。そして、もう来週再来週になりますと記念コンペがございますそして翌週が式典ということで、怒涛の週になってしまいますが是非ご協力いただいて、そのほか通常通り例会もおこないますので、慌ただしい4月になるかと思いますが、40周年ということでご勘弁いただいて、皆さんで感謝の気持ちを対内外的に示していきたいと思っております。それでは、本日もよろしくお願いいたします。

■幹事報告

運天直人幹事

○白河赤十字奉仕団委員長 安澤莊一：令和8年白河赤十字奉仕団総会の開催について

○泉田ガバナー事務所：第2回IFRジャパン大会青森五所川原開催2026の誤案内

■各委員会報告

●地区三大セミナー委員会

矢田部錦四郎委員長



皆さん、こんばんは。先日、急に地区の副幹事のほうに20名程にメールを出しました。土日のお手伝いということなんですが、メンバーがもう揃いましたので山口さんと鶴丸さん、それから十文字さん、メンバーあと多くいても向こうで何もやることはないので、私に返事とかそういうのも寄こさなくていいので、このメンバーで行ってきますのでメールを見た方はそれで決まったのでもう動員は大丈夫なのでご安心ください。じゃあ土日ちょっと頑張ってきますので、皆さん心の中で応援してください。

●40周年記念実行委員会

兼子聡事務局長

改めまして、40周年のほうからもご連絡をさせていただきたいと思っております。今日現在大体人数が出てきて参加人数が172名を超える人数となっております。そして、二次会のほうも米沢さんが22名、コザさんが12名、皆さん参加してくれるということで60名近くの人数での二次会になるのかなと思ってるところでございます。「赤門」さんでおこなうんですけども、ちょっとまわりに椅子が置いてあるんですけども年功序列順で、立ちになるという方がかなりいるかなと思いますので、その辺はご理解ご協力をよろしくお願いいたします。そしてもう一つ、改めて今まで式典の出欠を付けていただいたんですけども、今日も回しますのを見ていただいてマスを埋めていただければと思うのと、今日は新聞広告のゲラを持ってきました。これを回しますので、自分の名前、社名を確認していただいて、問題があれば赤ペンでチェックいただいて、訂正をして回していただければと思いますので、ご協力を

よろしく願いをいたします。

■本日のプログラム

●会員卓話

大竹ゆかり会員



皆さん、こんばんは。昨年10月に入会いたしました矢吹町にございます「大竹運送」の大竹ゆかりと申します。この度は白河西ロータリーへ迎え入れていただき、誠にありがとうございます。私の中でのまず白河西ロータリークラブでの印象がございます。皆さん、

とても紳士で淑女で話し方、立ち居振る舞い、とてももうなんか素晴らしいなという方が多くてびっくりしました。そして、とても穏やかな方が多いなという印象を受けました。皆様大変お忙しいお立場ではございます。時間を作り様々な会合に出席され、ロータリーのメンバーであることを誇りに思ってる方が多いのではないかとまず思いました。わたくしは31年前に高校生の時、この白河西ロータリークラブで大変お世話になったことは入会の時にお話させていただきました。交換留学生として一年間アメリカに行っておりましてその繋がりや、そして業界上の今いろいろ諸先輩からのご紹介ということで、こちらに入会というご縁をいただきました。今日は少し留学の経験や経緯を少し交えながらお話をさせていただきたいと思います。私とロータリーの出会いは、いろいろちょっと考えてみたらこちらのメンバーでもあります山縣先生が中学校3年の時に私の担任でございまして、実は私本当にどうしようもない中学生だったんですね。本当に今やこんな所でお話させていただいてはいるんですが、本当にもう勉強はしたくない。高校なんか行かないからみたいな感じで親になんか言ってたような感じで、お前高校行かなかったら何するんだみたいな、なんかそんな中三の危険な時期を終えまして。そしたら、その時山縣先生が「お前、白河にこういう実業高校という高校があるんだぞ。」ということで紹介していただきました。もう国語も算数も英語もやりたくない。もう学校も行かないからと言ってた私に、えっなんか面白そうだねという学校を紹介していただいたのが山縣先生でした。今日はちょっと残念ながらいらっしゃらなくて、お礼は後でこっそり言っておきますが、その先生が紹介をしていただけなかったら、わたくしが白河実業高校で留学の経験をするっていうことがなかったんじゃないのかということをもまず一番最初に思いました。その高校は実はとっても面白くて沢山の検定を取ることができる高校でした。もうそれはそれは楽しい、嫌いな国語、算数、英語はまあほとんどあったんですが、当時授業にパソコン、皆さんちょっとわかるか覚えてらっ

しゃるかどうかかわからないんですが、Lotus 1-2-3（ロータス ワン・ツー・スリー）とか一太郎とか、そんなものを高一からやっております、もちろんモニターがこんなもう30センチぐらい大きいやつで。勝手に電源切るなよみたいな感じで切り方もなんかあったり、そんなパソコンの使い方や、私は商業科だったんですが、そろばん、商業簿記、工業簿記、秘書検定に危険物、財務会計、情報処理、マーケティングの勉強が高校の時にできたんですね。この世の中がこんなふうに会計処理されてるんだ面白いということで、本当に高校生活をすごく楽しく過ごしております。そんな中、白河実業高校には当たり前のように外国人の生徒がおりました。なんでうちの学校に外国人の生徒がいるんだろうって思ってたんですが、まあ当たり前にいたのでよそから来たのかなぐらいの感覚で学校に行ってたんですが、確かテキサス州から来ている男の子でした。青い目をして金髪で実業の学ランが妙に似合わなく違和感しかなかったんですが、一生懸命日本語を話している姿を見て、この子私と同じくらいなのに外国から一人に来て勉強してるんだ、凄いなということですごく感心をしていました。ある日、その留学に関してのことなんですが、校内放送で「留学生希望を募る方、音楽室へ」という放送が流れました。クラスの子にちょっと行ってくるわみたいな感じで手を挙げて音楽室に行ったのは実は私だけしかなくて、その場でもう候補者内定をいただきました。それも出合いなのかなというところだったんですが。その後、学校から両親へ連絡が行き、次から次へと事が進み当時のロータリーの定例会。そして、県内のロータリー留学生を集めた会合。その間にパスポートを取り、次々と着々と準備が始まりました。その時、ちょうど姉もアメリカの大学に行っておりまして、特にそのアメリカに行くということに関して、そういった不安はございませんでした。なんとかなるでしょうという気持ちで渡米することを決心しました。ここでまず留学をするからと特に英会話も通わず、勉強も特にしませんでした。基本的に勉強が嫌いなので、最新の英語電子辞書と単三電池があれば怖いものないと思って行きました。どこからそんな自信があったのかわかりませんが、実は渡米が結構楽しみでした。私の留学先はアメリカのコロラド州ロングモントという町でした。州都のデンバーという国際空港のある都市から北へ約50キロの所にあります。そこで迎えてくださったロータリーのメンバーさんは、とても優しくて自分の子供のようによく扱ってくれる方でした。当時、白河西ロータリークラブの人数ぐらいはいたかと思います、ロングモントのクラブです。例会ではいつも40人から50人ぐらいのメンバーが常にランチのミーティングに来ていまし

た。ご年配の方がすごく多く、楽しくメンバーとお話しに来ているんだよということで、そんなことを楽しみに来ていたメンバーが多かったです。それぞれ活動報告など、いろいろな活動もしておりました。例会の流れに関しては、当クラブと同じようなことをしておりました。まず皆さんで席につき鐘を鳴らし、国歌斉唱してキリスト教徒が多いクラブでしたので、食事の前には皆さんでお祈りをして、そして「アーメン」と言ってお食事をいただいております。私は学校を抜け出して例会に行かなければならないという約束がありました。先生もそれに行かせなければならぬということで、私が少しでも見えない所にいるとすごい捜されて「ゆかり、ゆかり」みたいな「行かなきゃなんないよね」みたいな感じでいつも探していただいて、毎週木曜日に学校の近くにある教会の例会場があるんですが、そこで例会に参加するということをしました。31年前を私ちょっと調べてみたんですが、当時私がアメリカに行っている時には、阪神淡路大震災が起きました。地下鉄サリン事件も起こり、野球でいえば野茂選手の活躍。そして、P H Sが使えるということで、あとゆりかもめが開通して、Windows95が発売されるという記憶の残ることばかりの年でした。夏に渡米をして数か月が過ぎ日本も恋しいなという時もありましたが、家族への連絡もできましたし、お友達からエアメールで手紙もやり取りができたので、まあ楽しく寂しくなく過ごすことができました。アメリカの生活がとても楽しかったのか忙しかったのか、あっという間に時間が過ぎてしまって地元のロングモント高校での生活がとても楽しい一年間でした。この高校はアメリカンフットボールとブラスバンド、サッカーが盛んでした。私はE L Sという英語の特別クラスに入っておりまして、現地の基本教科の他に専門的な分野の科目を取ることができました。体育という一括りでも、バレークラス、バスケットクラス。音楽では、作曲クラス、演奏クラス。美術では、陶芸クラス、油絵クラス。実は、アカウントという会計のクラスもありました。基本の科目を学びながら専門科目も学べるという面白い高校でした。やはり、英語はわからなかったということで、初めはもうやっとなんてだったんですが、なんとか椅子に座って勉強することができました。半年ぐらい過ぎると何を言ってるか大体わかるようになってきて、ちょっとそれに対してちょっとお返しするようになって、英語も何となく聞き取れるようになりました。学校では日本人を好きな学生さんが沢山おりまして、当時、野茂の影響で野球が好きな男の子とてに声をかけられてとても気さくな感じでした。そこにも留学生が20人ぐらいおりまして、いろんなカリキュラムで英語を勉強しに来てる子がおりまして、ロ

ータリーで来てた留学生が楽しいというかありがたいというか、えーそんないというところ、いいなあとよく言われる羨ましがられるようなプログラムでアメリカに来ることができたようです。その高校の部活は季節ごとに変わるので、夏は水泳とかサッカーとかに所属しておりました、冬はサッカーで。お休みの日はロータリーのメンバーとその家族と過ごす時が多かったです。ある日、日本人会という情報をホストファミリーが教えてくださり、ボルダーという町にコロラド大学の大学生が作るお食事会に連れてってもらいました。久々にペラペラと話す自分の日本語の空間にちょっと安堵してしまいましたが、ホストファミリーはいつも日本人の私がどうしたら喜ぶかということを考えてくださいました。いろんな所に連れて行っていただいて、とにかくコロラド州はすごく広いので夜通し走ってやっと国立公園に行ったりとか、ロデオの大会を観戦しに行ったり、あとはスキーに行ったり映画を見に行ったり、あとはコロラドロッキーズという野球のチームの試合を観に行ったり、またクラブから毎月100ドルをいただいております。30ドルはお昼代で別で、130ドルをいただいております、現金で。それをいただいたので何に使おうかなという楽しみのお買い物も結構楽しくて、お買い物にも連れて行っていただきました。高校3年生の7月に夏休みも終わり、その時にロータリーの留学生としてコロラド州に来ていた留学生、大体40〜50人が乗れるバスがこう6台あったかと思うんですが、そちらの方全員でアメリカ西海岸1週間バスの旅、行ってきました。もう本当に、グランドキャニオン、ラスベガス、サンフランシスコ、もちろんロサンゼルスから全部有名所、全部バスで回ってその旅行が最後でその後帰国となりました。本当にいい経験をさせていただきました。まだまだ経験話は尽きませんが、私ロータリーってとてもすごいなあっていうこと、今でもしっかりとっております。改めてロータリーを考える時間を作ってみました。ロータリーとは、交流の中で人と人を繋いで平和を願って地球を愛して、地域のためにできる支援、教育の支援と何かできる事をみんなで考えて協力していく団体なのではないでしょうかということを思いました。私はこの経験を生かして、世界中の青少年にもっと世界の人々を身近に感じてほしいなと思いました。海外の文化に触れれば、将来素晴らしいロータリアンとしてこの地球の平和を守っていけるのではないかと思います。また、福島に来るロータリーの留学生にも本当に福島、白河に来て良かったと思えるような、10年後20年後思っていたような思い出を作って自分の国に帰っていただきたいなと思いました。何か私なりにこの白河西ロータリーを通じて、そういった青少年のお手伝いが

できればなと思っております。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

●鈴木恒平会員



皆様、改めましてこんばんは。初めに私、鈴木恒平と申しまして、会社は「桂設計」新白河のほうにごぞいましてそちらのほうに務めております。昨年10月には白河青年会議所の理事長として卓話をさせていただいたということがありまして、その流れでほとんど同じ話重なる部分が多いかと思っておりますけれども、できれば飽きずにお話を聞いていただければなと思っております。私自身ロータリーというものに触れる機会は先程の大竹さんのように青春時代があったわけでもなく、青年会議所入ってロータリーという存在を初めて知ったということ。それとまた、一番ロータリーで過去関わっているのは堀田先輩に誘われてやたらとゴルフを入会前から行かせていただきまして、多分10回近くゴルフは一緒させていただいたかなとは思っております。入会する際に、昨年の10月それこそ理事長卓話の後、ロータリー、J C、Y E Gゴルフコンペの後のほうに堀田先輩から、「恒平、ちょっと挨拶あるからよろしく。」と言われたのが、新人挨拶鈴木恒平君と言われたのが未だに、あっ俺、新人なんだということを、理事長ではなく新人としてその場に参加させていただいております。私自身、先程から何回も喋っているんですけどゴルフが本当に好きで、その中で諸先輩たちとも付き合いを増やす事ができておりまして嬉しく思いつつも、このロータリーに入ればまたそういう機会もあるのかなと思いつつ。私自身、このロータリーというのがちょっと正直言うと右も左もわからない状態で今入っております。ただ私自身が今、青年会議所というものに10年以上所属させていただいておりまして、その中ですごい今関心を持っていることがやはり防災について、災害復旧について等々を考える機会をいただいております。昨年も防災士の資格のほうをいただきまして、そういう機会、普段ないものを考えておりました。J Cを今年卒業しますので、それを機に多くの事、また防災であったりとか、自分の社業であったりとかいうものを集中して励んでいきたいと考えた時に、このロータリーというものに入会する機会いただきまして、本当にありがたく思っております。先程言ったとおり、ロータリーそのものについては正直言うと右も左もわからない状態であるんですけども、こういう組織に所属するということは多くの方々と交流を深めることができて、ちょっと今までさばってはおりませんけれども、間違いなく頑張っ

ロータリーの会に参加したいなとは思いつつ、また先日の十文字俊之さんが班長だったホームミーティングのほうで参加させていただきまして、そもそもロータリーってどういうものだったのとかって話を聞きながら、どちらかというところやって楽しんできたとか、こういう知識を貰ってきたんだという話を楽しくお話させていただきまして、そういう機会一つ一つ掲げていきまして、私も皆様のお力になればと思い参加できればと思っはいるんです。ロータリーというものがあまり知らなくて、非常に大竹さんと比べると恥ずかしながら簡単でございますけれども、少なくとも私はこういう人柄の人間だということを少しだけ知っていただければなと思ひまして、今後とも是非ともよろしくお願いいたします。

●藤田龍文会長

恒平君の例えばロータリーの入り方なんかにしても、堀田君とかいろいろな団体の関係でゴルフを通してとか、そういった部分でこの会に入ってもらったとか、そういった部分がロータリーにはすごくこう大事で皆さんそれぞれベテランの方でも何かしらのこうきっかけがあってこのロータリークラブに入る部分があったかと思いますが、恒平君はそういった感じで例えばゴルフだったり、大竹さんはこういう留学で、そしてその業界の方から紹介をいただいて入るというきっかけというんはすごく大事だと思いますので、是非ロータリーにしてもいろいろな方と接して新しく入る方にきっかけを作るのが私も現役会員の役目だと思いますので、是非そういったところも普段ゴルフでもいいですし、いろいろな趣味の世界の中でもちょっと誘っていただけるというのは、新しい会員の芽が芽生える関係だと思っております。私、諸団体で例えば国際交流協会の子供達を白河市ですとフランスのコンピエーニュ市との姉妹都市で中学生の子供たちを毎年フランスに、今ちょうど行ってる最中なんですけど送ったりそういったことをやってるんですが。やはり、その団体でももう30年ぐらい当時小野亀八郎覚えてる方いらっしゃるのか。小野亀八郎市長の時に、たまたまルセルを工業団地で誘致した時に、ルセルがたまたまフランスのコンピエーニュ市の会社だったということで、そこから姉妹交流が始まったんですが、もうそちらも20年近く交流してるんですが。やっと当時中学生で留学に行った子供達が国際交流協会に入ってきて理事になり始めました。やはり、それこそがやはりそういういろんな会の目指すべき本当の形の理想形かなと思っております。大竹さんが先程仰ったように当時はロータリーわからなくても留学に行って、そこでロータリーの素晴らしさを逆に海外から味わって戻っ

てきて、いろいろなきっかけがあってこのロータリークラブに入る。まして当時、西ロータリーから行ったんですもんね。その送り出したクラブに入るというのも理想中の理想だと思いますし、先程も金田ガバナーエレクトの顔を見て、来年多分講師で使うんだろうなというくらいいい眼差しで見て、大竹さんのそういった話ってとてもロータリアン自身にも勉強になりますし、これから留学行く子供達にも事前に聞かせてあげればいいのかと思っております。ちょうどさっき大竹さんの話の中で、大竹さんが高校の在学中にテキサス州の留学生が実業にいたというのがあったんですが、多分それがうちに父親がロータリークラブ当時所属しておりましたので、その時にうちにいたウェスリー君ですね。それが多分うちに留学中に居候じゃないですね、何て言うのかな。滞在しておりました。当時はもうなかなか家庭で私もそんなに話をするほうじゃなかったの、家に帰ったら何日か後にアメリカ人が来るぞということで父に言われまして、たまたま隣の部屋が空いてたのでその方が私の隣に来て「お前、面倒見とけよ。」ということで、もうずっとそのウェスリー君と毎日毎日日本語の練習だったり、英語の練習だったり。当時は合法だったと思うんですがお酒が好きだったようなので、家の中でお酒を飲んだりしながら情報交換したり。ただ本当その時に彼はやっぱり週末になるとロータリアンの方がいろんな所に連れてっていただいて、本当に日本は楽しいと。毎朝、本当に似合わない学生服で実業まで自転車でごう走ってって送り出して、雨の日は送ってけなんて言われてね、送ってったりして。そういうきっかけがとても良かったと思いますし、それを見て、大竹さんのようにそれに感化されて留学をする。そしてまた、あちらでいろんな経験してロータリーに入ってくるというのはもう本当に理想中の理想だと思って聞いておりました。是非これからもそんな形で留学だけじゃないんですが、私どもがやったいろいろな事業で、例えばCKBとか、ジロデ白河でもいいですがそういったところ出て、あっこれはロータリーがやってたんだなああと後になって気付いたり、そういった部分でロータリークラブに戻ってきてくれるというそのサイクルが一番理想な、会員が減少してきた時に私どもがいろんなところで皆さんがいろんなところで勧誘してるんですが、一番はそういったところがメモリーされて、あの時お世話になったこの会ねっていうのが入ってくるっていうのが一番理想かななんて思ったりもしてます。そういったところで、来年度もおそらく留学生の方が当クラブにいらっしゃいますので、そういったその未来の種になりますので。まだ。国は決まってないようですが、おそらくこの世界情勢からいくと欧米系の方はどうかな、

アメリカ系はちょっと難しいかもしれませんが、欧州系かアジア系の方かなというのが濃厚になってくるので、その子達はおそらく例会にも何回か来た菊地さんがその国に行って、代わりにその相手の国の方がこちらに来ますので、そういったところで貴重な、大竹さんがアメリカで経験したような素晴らしい経験を私共はやってあげられればいいのかと思っておりますので、是非私たちのいろんな事業に誇りを持って、未来のロータリアンになるという部分も頭に入れながらいろいろ接してくるとまた事業が楽しくなると思いますので、またよろしく願いいたします。本日は卓話ありがとうございました。

●金田昇ガバナーエレクト



明後日の会長エレクトラーニングセミナーで使う資料の中で、皆さんにちょっと報告をしてなかったところがありますので、そこを何点か話したいと思います。国際協議会の事はちょっとだけお話ししましたが、資料があまりまとまらなかったの、今回ちょっと10分くらいいただいご報告したいなあというふうに思います。場所はフロリダ州のオーランドのローゼンシングルクリークホテルという所で開催されました。前にも見ていただいたんですけど、こんな感じで上の大きい写真が全体会議で、下の左側が日本から行った同期の34名プラスαの方達の記念写真です。あと右下が分科会ということで、各国の会長エレクトさん、ガバナーエレクトさんといろんな事に対して、例えば会員増強はどうしたらいいとか、どんな問題を地区で持ってるかとか、そんなことも含めて討議をしながら研修を重ねてまいりました。次年度のRI会長の方が、オンラインカ・ハキーム・ババロラさんという方でございます。今、アフリカ出身では二人目のRI会長ということでございます。石油ガスの会社を幾つかやってらっしゃる方だそうであります。とても気さくな方で、私たちがお酒飲んでたり宴会やってる時にはすぐそばに来て声をかけてくれるような素敵で、見た目ちょっと怖いのかと思ったら全然違ったのでびっくりしました。この方のお話の中で幾つかあるんですけど、来年のメッセージが「Create Lasting Impact」ということで「持続可能なインパクトを生み出そう」。で、インパクトって何というふうな思いがありますね。衝撃的な事柄ということではないんですね。そうではなくて成果が影響するものということで、影響すること。社会に対して影響を与えましょうというふうなことをインパクトと言ってます。例えば、ポリオですね。こういうのを根絶してきました。あとちょっとで世界

中で根絶するんですけど、これをやっていく、その20年近くやっているんですけど、この活動が世界に与えた影響これをインパクトと彼は言ってます。ですから、私たちの活動が社会に対して何か影響を与える。これをインパクトということで、「持続可能なインパクトを生み出していこう」と。それを社会に変化を与える何かきっかけをロータリーが作れたならというふうな意味であります。彼が言ってたんですけど。この新会員を迎え入れる準備はできてますか、各クラブにおいて私たちのクラブ。これは会長のエピソードなんですけども、これから彼が言った言葉をちょっと復唱してくんですけど、若きローターアクターとしてロータリーに入会しようとした時、オラインカさんね。私は抵抗にあいました。ある日、私はクラブの昼食例会に行きました。以前にも招待を受けて参加したことがありました。若いローターアクターだった私を見て、そのクラブの会長はここで何をしてるんだと言いました。ロータリーに入会するためだと私は答えました。会場にいた全員が振り返り私を見ました。で、彼はこう言いました。なんという厚かましさを、ただ入会できるわけがないだろう、招待が必要だと言われたそうであります。そこで諦めることもできましたが、彼はババロアさんは私はこう言いました。子供が親の家に入るのに招待が必要だとは知りませんでした。ローターアクターですから、ロータリーが親でありローターアクターは子供なんだという考え方です。会場が沈黙に包まれる中、ソジさんという方がロータリアンが「インカ、私が君を推薦するよ。」と言って、その場でロータリアンになれたそうであります。ここで何を言おうとしてるかという、私たちの日本にあるクラブでも何か若い人、いろんな障がいがあったり、いろんな事をしてる方がロータリーに入ろうとしているところに障害を与えてないだろうか。何かこう別な目線で拒否したりしてないだろうかということを訴えてました。今、日本では会員増強が話題になって問題になってますので、なかなか拒否するということはあまりないんですけども、それでもやっぱりこういういろいろあるでしょうから、そういうことのないようにどんどん積極的にどんな方でも受け入れてくださいというような意味だと思います。もう一つエピソードを言っていました。ロータリーが自分自身をどう変えたかについて、私たちはあまり考えてません。私も30年間ロータリーに入っているんですけども、じゃあロータリーが私をどう変えたかということに関してあまり考えてないんじゃないかなというふうな意味であります。このエピソードの中で、アメリカノースカロライナ州のロータリークラブの会員であるティア・コッパスさんという方、これ女性の方なんですけども。2021年にティ

アさんの夫は19か月に及ぶ闘病の末、癌で亡くなりました。夫の介護とコロナのパンデミックによる隔離生活によって、ティアさんは19か月間ほとんど誰とも会っていませんでした。そんな時、ティアさんが所属するロータリークラブの親友が電話をかけてきてこう言いました。来週木曜日の夕食会に来てください。あなたに会いたいんです。緊張と不安の中、ティアさんはロータリーの夕食会に足を踏み入れました。しかし、席に着く間もなく初めて会う新会員が彼女を抱きしめこう言ってくれました。「来てくれて本当に良かった。」その瞬間、ティアさんは自分が一人ではないこと。自分にはコミュニティがあることに気付きました。ロータリーこそ彼女のコミュニティだったのです。先程の大竹さんの年配の方達が集まっているいろいろなお話をしてるコミュニティなんだということでもあります。その夕食会の後、ティアさんはこの体験が自分に与えたインパクトについてこう綴っています。ロータリーはあなたが最も必要とする時に静かに愛情を持って側にいてくれるのです。普段は自分が与える側にいたとしても、受ける側になってもいいんだと教えてくれたのです。そして、こう続きます。ですから、繋がりと奉仕、居場所を求めているならロータリーがその答えとなるでしょうということでもあります。ロータリークラブの運営、また会員を迎え入れる例会の在り方、そういうものに対して何かオラインカさんが教えてくれたような気がします。白河西ロータリークラブ、こういうことができているからこそ会員の拡大、また楽しい例会、例会の参加者も多いですし、素晴らしい会なんだなというふうに思ってます。これからもこの会の良き伝統を綴って行ってほしいなというふうに思っております。それで来年のガバナー方針というのは「連携と連帯」で持続可能なインパクトを生み出そうというふうな言葉を出させていただきました。「連携と連帯」というのはこう硬い言葉なんですけど、手を繋いでみんなで良い方向にしていきたいと思いますというふうな意味であります。地区内2千名のメンバーがいますし59クラブあります。いろんな方がいますので、その人一人一人が連帯、連携を作って一つの塊になって良い方向に行ければなということを言っております。この後いろんなこれから30分くらいこれに基づいたいろいろなお話をさせていただきますが、R I 会長のオラインカさんのお話とても印象的な話でした。こういう話を沢山聞かせていただいて国際協議会で勉強してまいりました。あと来週から来年の会長さんと一緒になって59クラブどうやって運営していくのか、一緒に膝を突き合わせながらお話をしていきたいなというふうに思っております。それでも、そういう会も今回は矢田部セミナー委員長さんが三大セミナー実行委員長さんが非

常に精力的にやっていただいと同時に、それを支えてくれるメンバーの方がいらっしゃるから、今度の会合も多分成功裏に終わるなというふうに思っております。明々後日28日29日のセミナーの成功を祈っております。皆さんご協力ありがとうございました。

●地区三大セミナー 矢田部錦四郎実行委員長

三大セミナーの実行委員長ということで、訳もなく受けてしまいました。今までの経過の中で初めての部分なんですけど、私なりにちょっと感じたことがあります。地区には地区の組織があるという部分で、ガバナーを出すたびにこの三大研修を何故我々がやらなければならないのかなという疑問ですね。本来、地区にそういう組織があるのであればその組織のところにこの三大研修という実行委員会を作っておけば、こんなにガバナー輩出する時に苦労はしないんじゃないかなということを、私パストガバナーの平井さんにくどくどと口説きました。その結果、今その歴代のパストガバナーがこの三大研修をやったファイルを全部添付するからということで、今までズーム2回を開いてくれました。こういうことがもっと早くわかれば金田エレクトもノミニーあるいはデグジネートの時に、我々が幹事と一緒に訪問してその会議の流れをしっかりと把握しておけばやはりもっと楽にできたと思うんですね。でも、この研修を支えてるのはやはりガバナー事務所の事務局、今3名になってますけど基本は2名で頑張ってます。一人は今の泉田年度の事業を支えています。そして、もう一人はこの金田年度の三大セミナー研修と、あとはガバナー事務所の仕事でやっております。非常に私もこう実行委員長として総務委員会を作ったんですが、仕事を分担できないんですよ。ほとんどが前例を基に決められた講習内容。そこに誰がどの立場でそれを話すのか、講師は誰なのかというのがなかなか我々だけでは判断つかない。やはり、最終的には金田エレクトなんですけど、やはりそういうものなので、皆さんに仕事頼みたくてもね頼めないんですよ。ですから、やはり諸橋さんと協力しながら前年度どんなことをやったのかなという部分でいろいろとそういう仕事がほとんどなんですね。非常に細かい仕事、人の名前、そして席順。それから何気なく我々がこう見ている日の丸どっちだっけかなとか、入り口にはパストガバナーを並べちゃいけない。やはり入り口遠い所にパストガバナーの席を置くとか、そういうものがほとんど段取りとして我々がやっていかなきゃならない。今回も会長エレクトの中で何をやるかという、分科会を作るそのテーブルの設置とか、そういうやはり動員しないとできないようなことなんですよ。エレクトが親睦を大事にしたい。会長エレクトと酒を酌み交わして

私の思いを伝えたいということで、そういう旅館というこの県南地区でも名の通った旅館で是非やりたいという、そういう熱い思いで今回「八幡屋」さんに設定しています。そんな感じで我々も今頑張ってきたんですが、前回の「那須グランディ」で皆様ラーニングファシリテーターって言って、英語だからよくわからないんだけど研修リーダーという名前なんですね。だから、やはりそういう方いるにも関わらずああいう場所で私の挨拶を前年度も今年度も忘れたという凄いお叱りを受けたんですけど、私にそれはあなたが研修リーダーではないのということで、やはりその研修リーダーとエレクト、それからパストガバナー、この辺の連携が非常に悪いです。ですから、私なりに今年度の結果を反省しながらこの組織とかいろんなものを金田年度で何か少しづつ変えてもっと透明性のある組織。そして、いろんな面で地区とクラブの連携を取れるような、そういうクラブにということでも金田エレクトのほうから言われてますので、少しでもそういうものをサポートできればいいかなということを思ってます。私の夢に出てくるのは、ファイルが追っかけてくるんですよ。こんな夢は私見たことないです。ほとんどがパソコンの前でいて、いろんな一日何十通というメールが来て、それが誰に来てるのかということを確認しなきゃならないし、非常にもっとロマンチックな夢を見たいなということを思ってます。早く5月が終わってバイクでどこに行こうとかどこかに行ったら夢を見れるようにちょっと私もそれまではしっかり頑張っていきますので、是非次回の今度5月そこがやはり600名が集まります。ですから、駐車場も「華の湯」から遠いんです。ですから、そこに結構駐車場の動員なんかも安全のためにちょっと多く頼まなければならない部分もありますので、是非その時は「はい喜んで」ということで協力をいただければ助かります。